

東海地域の野菜をめぐる事情

令和 6 年 7 月

東 海 農 政 局

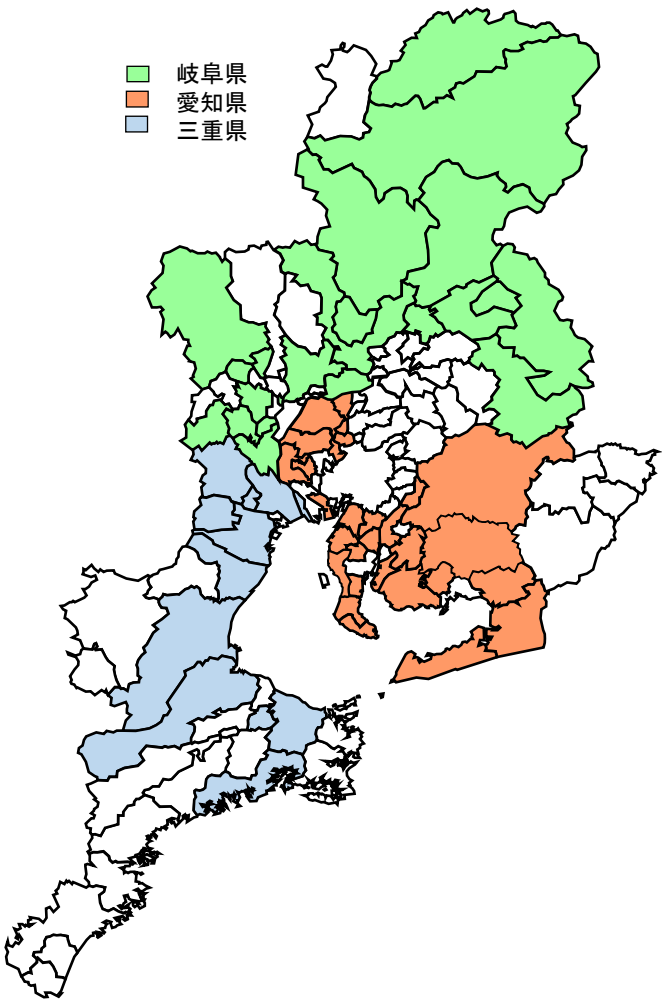
1 野菜指定産地一覧(令和6年5月末現在)

県	野菜の種別	野菜指定産地名	区域	県	野菜の種別	野菜指定産地名	区域
愛知県	春キャベツ	稲沢	稲沢市	岐阜県	夏秋きゅうり	西南濃	海津市、養老郡及び安八郡輪之内町
		渥美	田原市		冬春きゅうり	西南濃	海津市
	冬キャベツ	豊橋	豊橋市		秋冬さといも	中濃	関市及び美濃市
		豊川宝飯	豊川市			各務原	各務原市
		知多	半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市及び知多郡		夏だいこん	飛騨北濃	高山市、飛騨市及び郡上市
		稲沢	稲沢市		秋冬だいこん	岐阜	岐阜市
		渥美	田原市		たまねぎ	西南濃	大垣市、海津市、養老郡及び揖斐郡
	冬春きゅうり	西三河	岡崎市、碧南市、刈谷市、安城市及び西尾市		夏秋トマト	飛騨	高山市、飛騨市及び下呂市
	春だいこん	江南	江南市			東濃	中津川市及び恵那市
		愛西	愛西市			郡上	郡上市
	たまねぎ	碧南西尾	碧南市及び西尾市			可茂	加茂郡七宗町、白川町及び東白川村
		知多	常滑市、東海市、大府市、知多市及び知多郡		冬春トマト	南濃	海津市、養老郡及び安八郡輪之内町
	冬春トマト	豊橋	豊橋市		夏秋なす	恵那	中津川市及び恵那市
		豊川宝飯	豊川市		春夏にんじん	各務原	各務原市
		海部	津島市、愛西市、弥富市及び海部郡飛鳥村		冬にんじん	各務原	各務原市
		渥美	田原市		ほうれんそう	飛騨	高山市及び飛騨市
	夏秋なす	岡崎額田	岡崎市及び額田郡		おくみの	郡上市	
	冬春なす	豊橋	豊橋市	岐阜県計 17 産地			
		西三河	岡崎市、碧南市、安城市、西尾市及び額田郡	三重県	春キャベツ	鈴鹿	鈴鹿市、亀山市
		愛知西	一宮市及び稲沢市			中勢	津市及び松阪市
	冬にんじん	碧南西尾	碧南市及び西尾市			北勢	四日市市、いなべ市及び三重郡菟野町
		愛西	愛西市		冬キャベツ	鈴鹿	鈴鹿市、亀山市
	秋冬ねぎ	尾張西部	一宮市、江南市及び岩倉市			中勢	津市及び松阪市
	春はくさい	愛知西	一宮市及び稲沢市		北勢	四日市市、いなべ市、員弁郡及び三重郡菟野町	
	秋冬はくさい	豊橋	豊橋市		冬春トマト	北勢	桑名市及び桑名郡
		愛知西	一宮市及び稲沢市		春ねぎ	伊勢	伊勢市、玉城町
		豊川	豊川市(旧小坂井町の区域を除く。)		夏ねぎ	伊勢	伊勢市、玉城町
		三好豊田	豊田市及びみよし市		秋冬ねぎ	伊勢	伊勢市並びに度会郡玉城町及び南伊勢町
	ほうれんそう	尾張西部	一宮市、稲沢市、清須市及び北名古屋市			鈴鹿	鈴鹿市
	冬レタス	西知多	東海市及び知多市		秋冬はくさい	三重四日市	四日市市及び三重郡菟野町
		田原	田原市			鈴鹿	鈴鹿市
愛知県計	31 産地			ばれいしよ	四日市	四日市市	
				三重県計 14 産地			
				東海計 62 産地			

【野菜指定産地】

指定野菜の生産、出荷の近代化を計画的に進め、その価格の安定を図るため、指定野菜の集団産地として育成していく必要があると認められる産地。

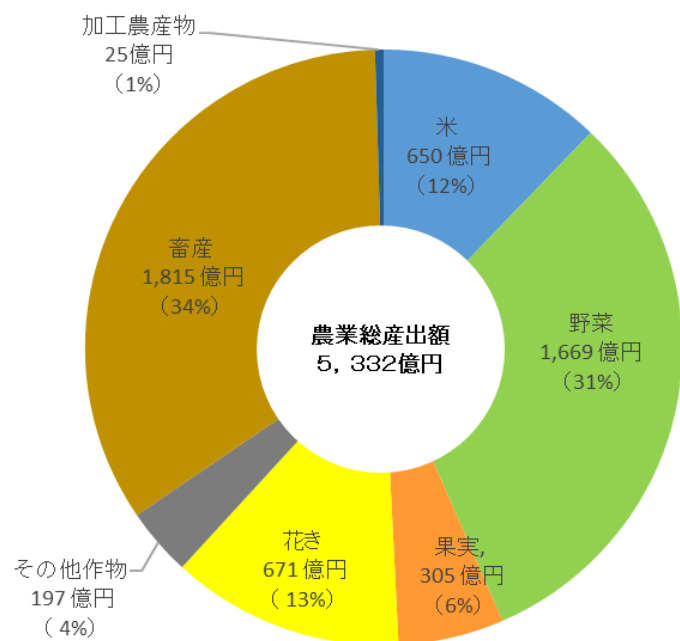
※下記地図の有色の市町村が管内における野菜指定産地。



2-1 産出額の状況

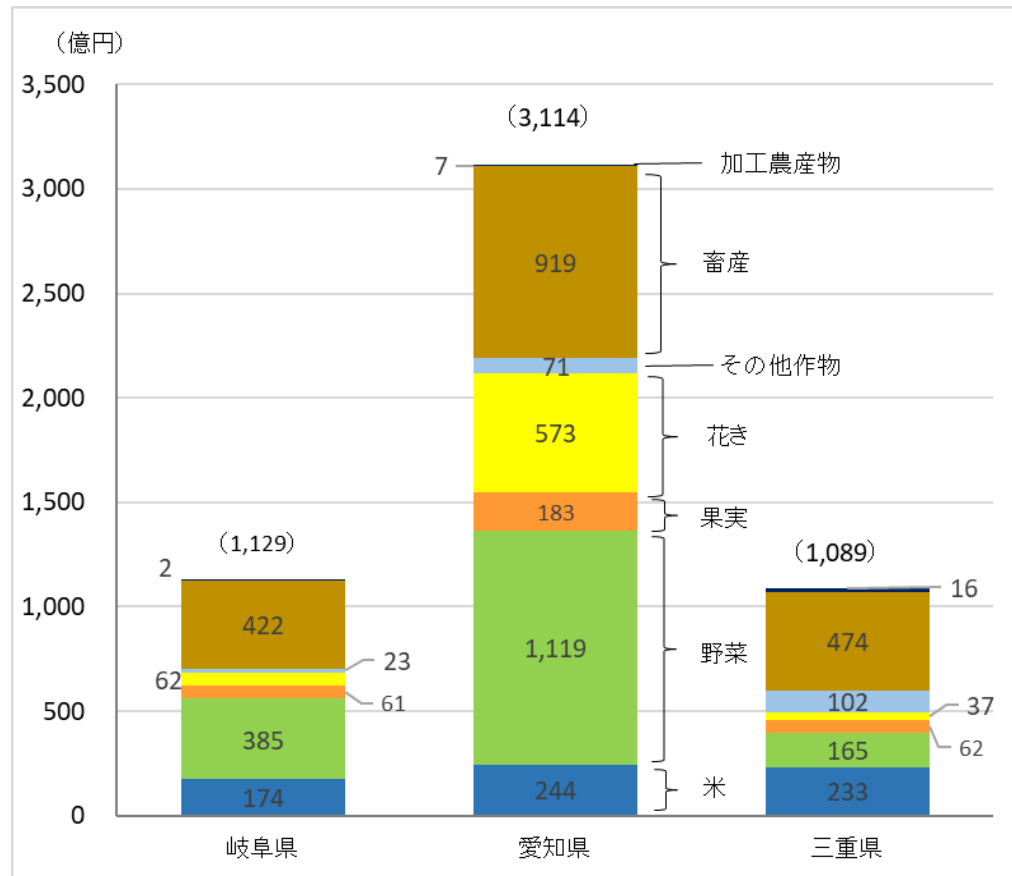
- 東海地域の野菜産出額（1,669億円）は、農業総産出額の3割を占めており、そのうちの約7割（1,119億円）を愛知県が占めている。

＜東海地域の農業総産出額構成（令和4年産）＞



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

＜東海3県別の農業総産出額構成（令和4年産）＞

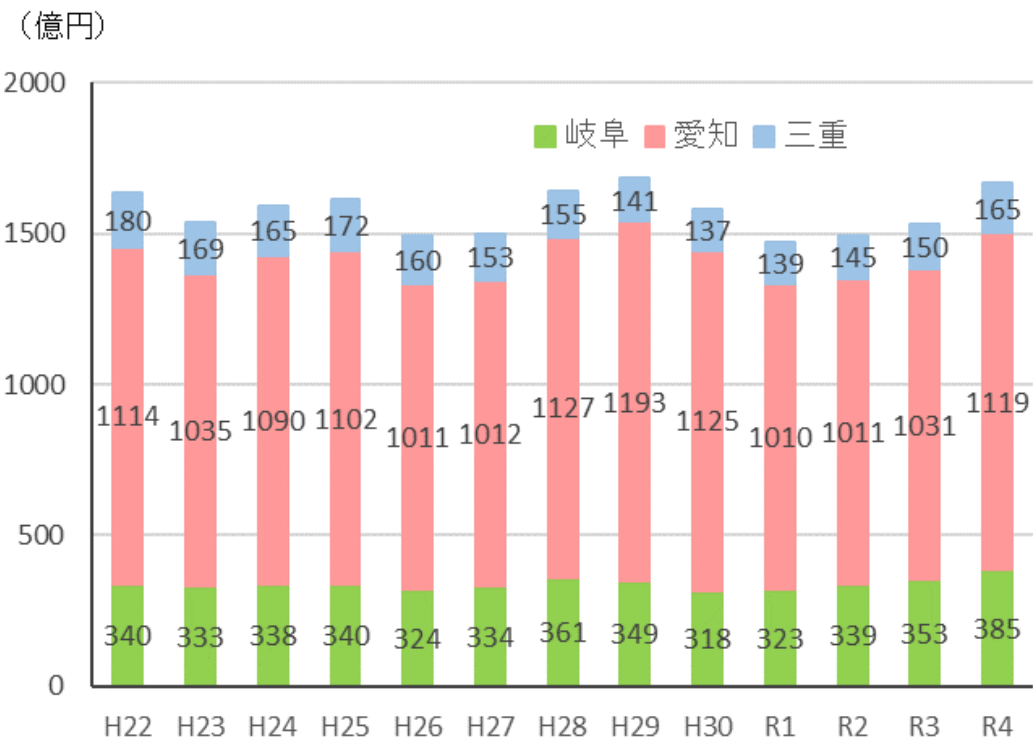


資料：農林水産省「生産農業所得統計」

2-2 野菜産出額の状況

- 東海3県の野菜産出額は、近年、増加傾向であり1,669億円に達している。
- 愛知県の野菜産出額は、全国第5位。

＜東海地域の野菜産出額の推移＞



資料:農林水産省「生産農業所得統計」

＜東海3県の野菜産出額の全国順位(令和4年)＞

順位	都道府県	野菜産出額 (億円)
1	北海道	2,228
2	茨城	1,611
3	千葉	1,335
4	熊本	1,248
5	愛知	1,119
6	群馬	892
7	長野	886
8	埼玉	744
9	栃木	749
10	福岡	686
...	...	...
21	岐阜	385
35	三重	165
全国		21,467

資料:農林水産省「生産農業所得統計」

2-3 県別の野菜産出額の状況

○ 県別の野菜産出額は、岐阜県はほうれんそうが全国で5位、トマトが全国で7位。愛知県は全国で上位を占める品目が多く、キャベツ及びしそが全国で1位、トマトが全国で3位、なす及びたまねぎが全国で5位。三重県はやまのいもが全国で11位、さやえんどうが全国で14位となっている。

＜東海3県別の野菜産出額上位10品目（令和4年）＞

【岐阜県】

順位	品目	産出額 (億円)	全国 順位
1	トマト	78	7
2	ほうれんそう	59	5
3	いちご	26	21
4	だいこん	23	11
5	きゅうり	15	24
6	なす	9	19
7	ねぎ	9	35
8	えだまめ	8	12
9	こまつな	6	13
10	さといも	5	17
県計		385	21

【愛知県】

順位	品目	産出額 (億円)	全国 順位
1	キャベツ	195	1
2	トマト	173	3
3	しそ	137	1
4	いちご	104	6
5	たまねぎ	42	5
6	なす	36	5
7	メロン	36	6
8	きゅうり	34	9
9	ブロッコリー	32	6
10	すいか	28	7
県計		1,119	5

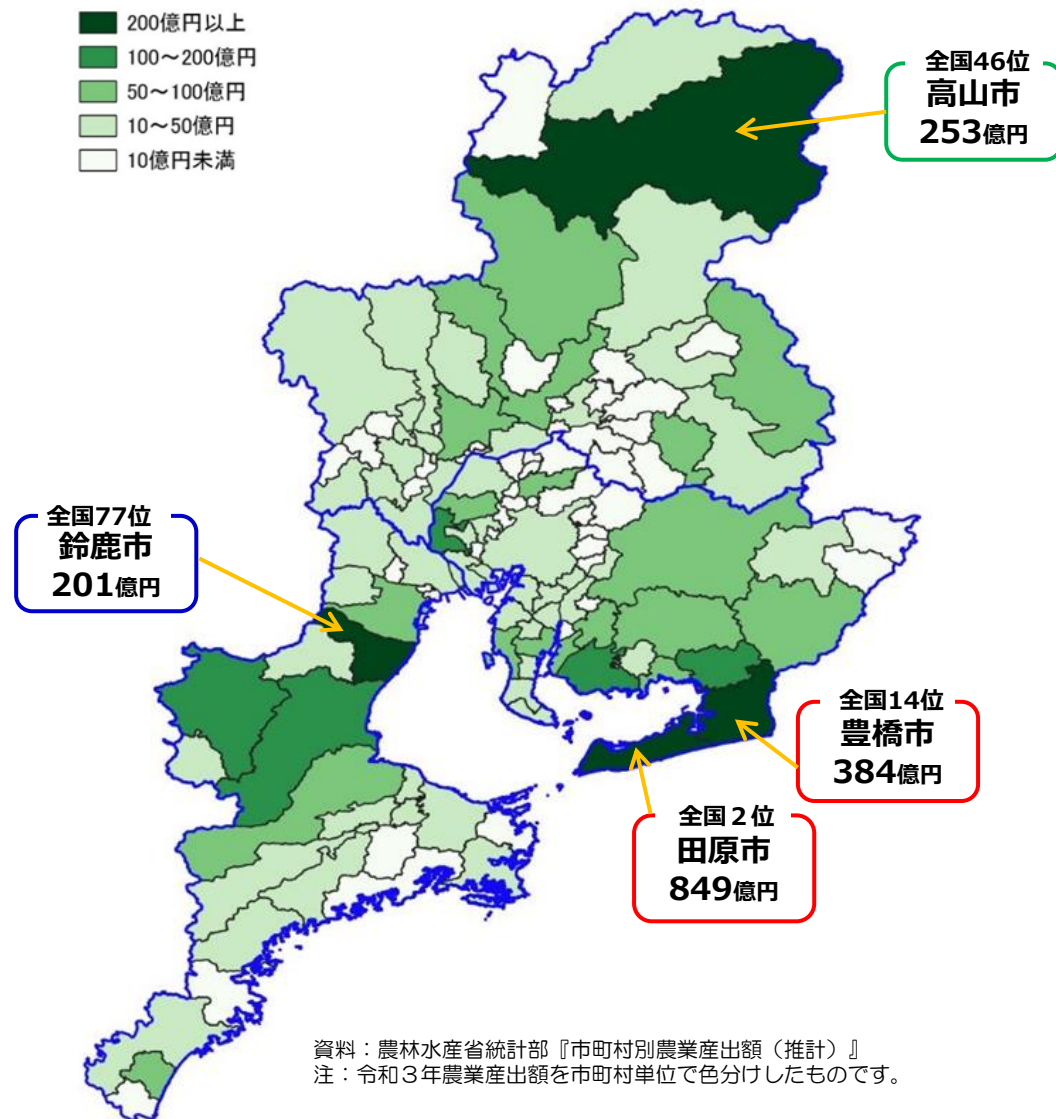
【三重県】

順位	品目	産出額 (億円)	全国 順位
1	トマト	31	21
2	いちご	20	26
3	ねぎ	15	28
4	キャベツ	6	23
5	きゅうり	6	38
6	やまのいも	5	11
7	なす	5	33
8	さやえんどう	4	14
9	はくさい	4	18
10	ほうれんそう	4	40
県計		165	35

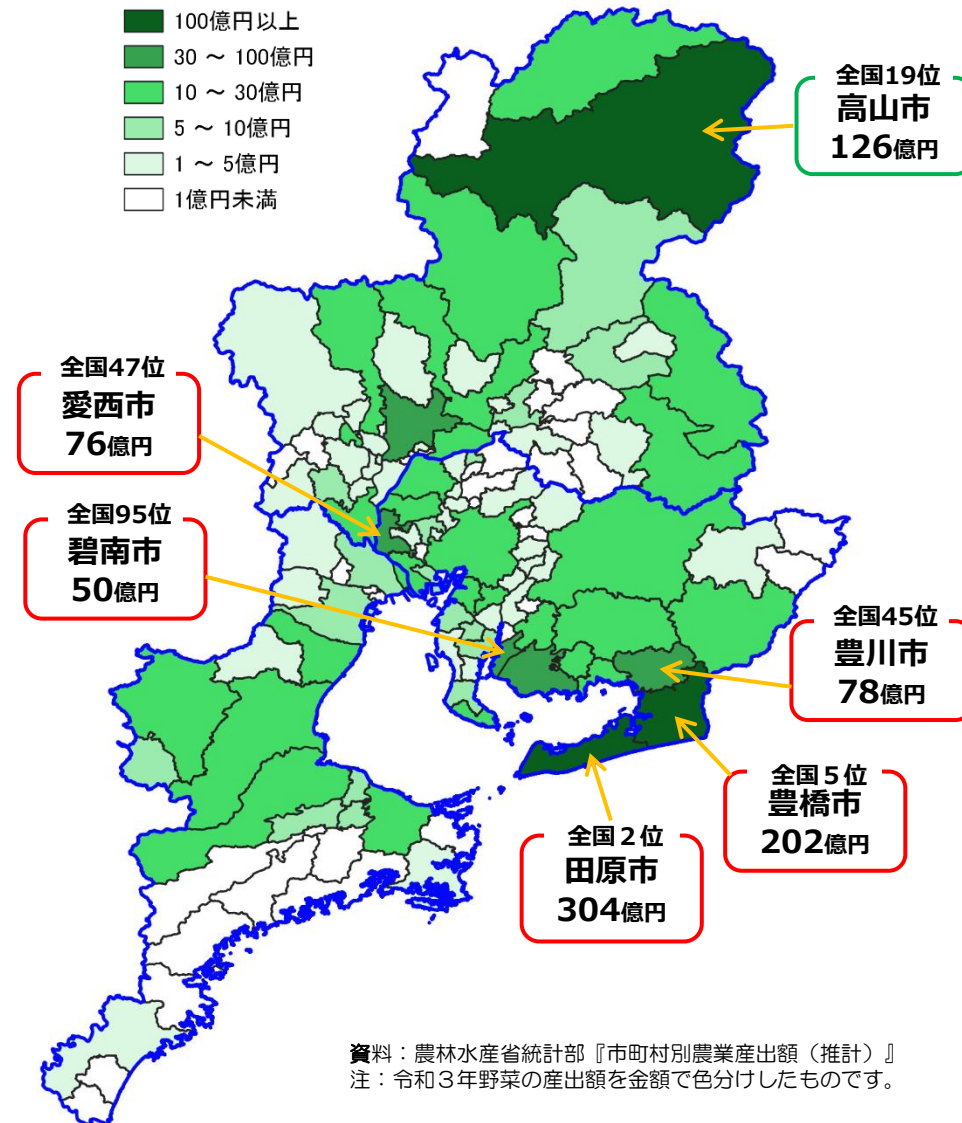
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

(参考)東海3県市町村別の農業産出額・野菜産出額の状況

＜市町村別の農業産出額の状況(令和3年)＞



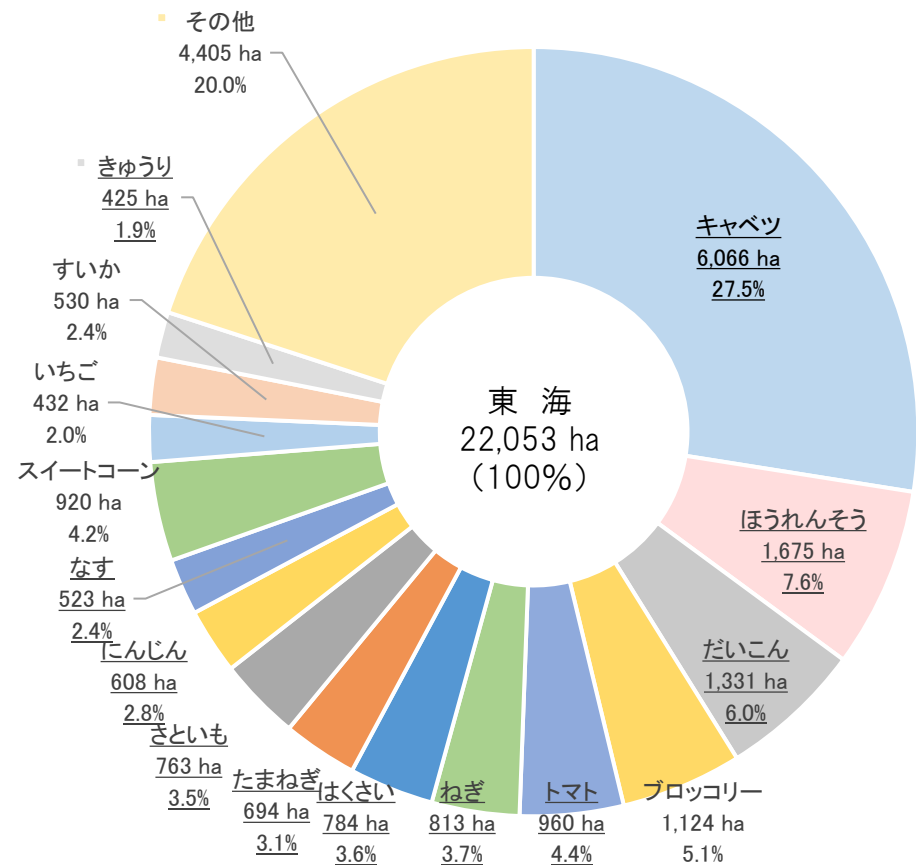
＜市町村別の野菜の産出額の状況(令和3年)＞



3-1 主な野菜の作付面積の状況

○ 東海地域の野菜作付面積は、約2万ヘクタールで、そのうち、キャベツが約3割（6,066ha）、ほうれんそうが約1割（1,675ha）を占めている。また、東海地域のキャベツの約9割を愛知県で、ほうれんそうの約7割を岐阜県で作付けしている。

＜東海地域の主な野菜品目別の作付面積(令和4年産)＞



資料:農林水産省「野菜生産出荷統計」
注:下線の品目は、指定野菜の指定を受けている品目である。

＜指定野菜の県別作付面積(令和4年産)＞

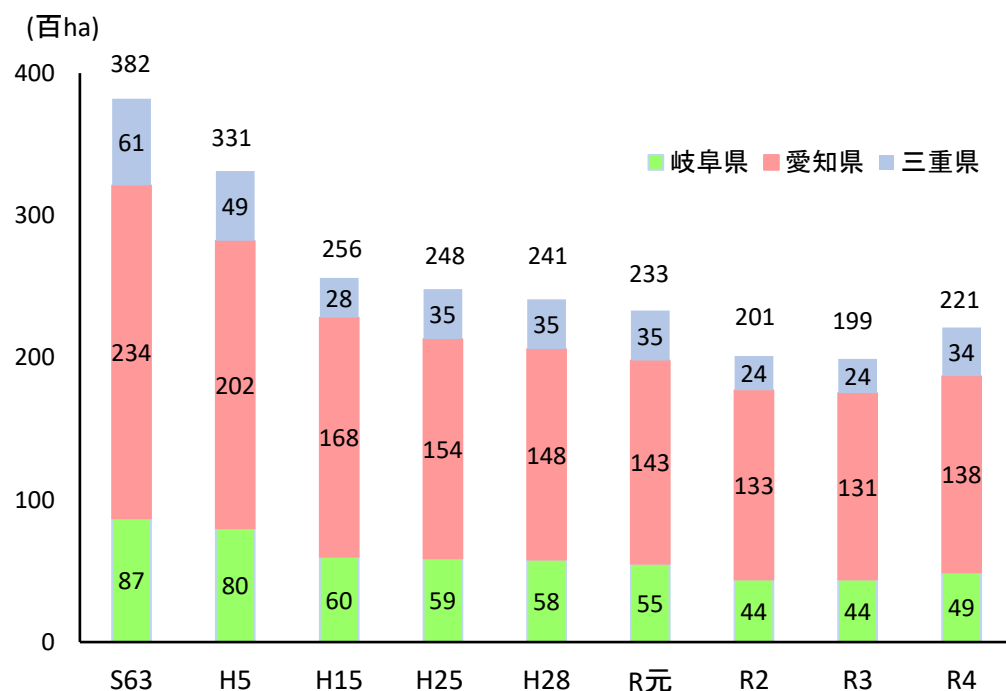
指定野菜	(単位:ha)			
	岐阜	愛知	三重	東海計
キャベツ	213	5,440	413	6,066
きゅうり	155	165	105	425
さといも	297	280	186	763
だいこん	520	541	270	1,331
トマト	280	512	168	960
なす	136	241	146	523
にんじん	161	376	71	608
ねぎ	187	386	240	813
はくさい	216	359	209	784
ピーマン	36	45	47	128
レタス	31	305	46	382
たまねぎ	101	475	118	694
ばれいしょ	285	261	185	731
ほうれんそう	1,150	415	110	1,675
合計	3,768	9,801	2,314	15,883

資料:農林水産省「野菜生産出荷統計」
注:野菜指定産地の区域を包括する市町村の作付面積が調査対象である。

3-2 作付面積の推移

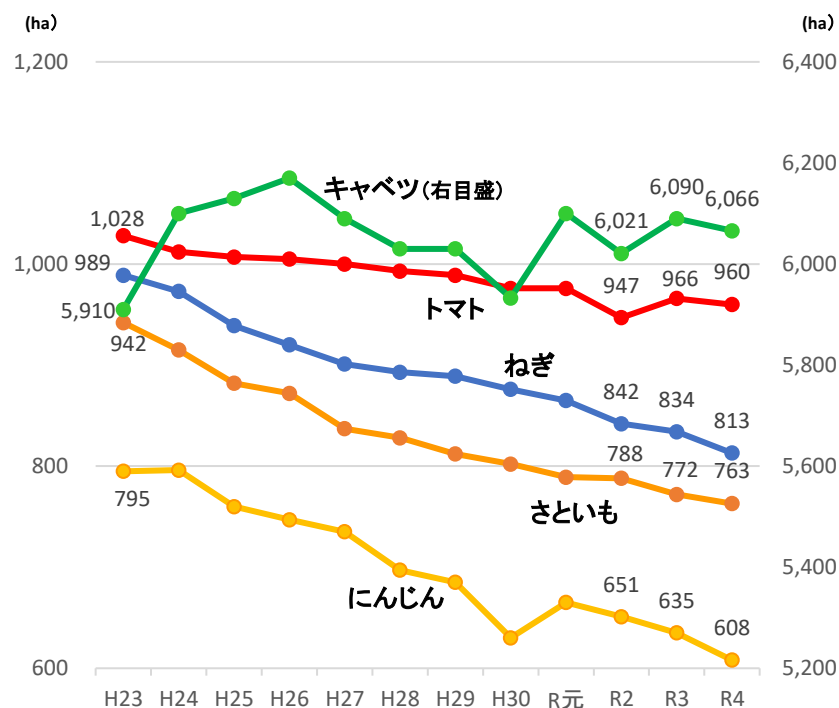
- 東海地域の野菜の作付面積は、令和4年度は微増しているものの減少傾向。
- 東海地域の主要野菜の作付面積は、各品目とも減少傾向だが、キャベツは横ばい傾向。

＜東海地域の野菜の作付面積の推移＞



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

＜東海地域の主要野菜の作付面積＞



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

3-3 県別・野菜品目別の作付面積の増減状況

- 県別・野菜品目別には、多くの品目で作付面積が減少する中で、岐阜県は1品目（キャベツ）、愛知県は1品目（カリフラワー）、三重県は5品目（キャベツ、ブロッコリー、ねぎ、トマト、はくさい）が増加。

＜県別の作付面積が増加している品目＞

単位:ha

	品目	平成25年	令和4年	増加面積
岐阜県	キャベツ	170	213	43
愛知県	カリフラワー	108	121	13
三重県	キャベツ	370	413	43
	ブロッコリー	85	97	12
	ねぎ	235	240	5
	トマト	159	168	9
	はくさい	194	209	15

＜県別の作付面積の減少している上位5品目＞

単位:ha

	品目	平成25年	令和4年	減少面積
岐阜県	ほうれんそう	1,330	1,150	△ 180
	だいこん	636	520	△ 116
	えだまめ	322	218	△ 104
	ねぎ	226	187	△ 39
	さといも	330	297	△ 33
愛知県	はくさい	635	475	△ 160
	にんじん	518	359	△ 159
	たまねぎ	5,590	5,440	△ 150
	キャベツ	509	376	△ 133
	だいこん	655	541	△ 114
三重県	たまねぎ	201	185	△ 16
	ばれいしょ	131	118	△ 13
	さといも	194	186	△ 8
	きゅうり	111	105	△ 6
	なす	152	146	△ 6

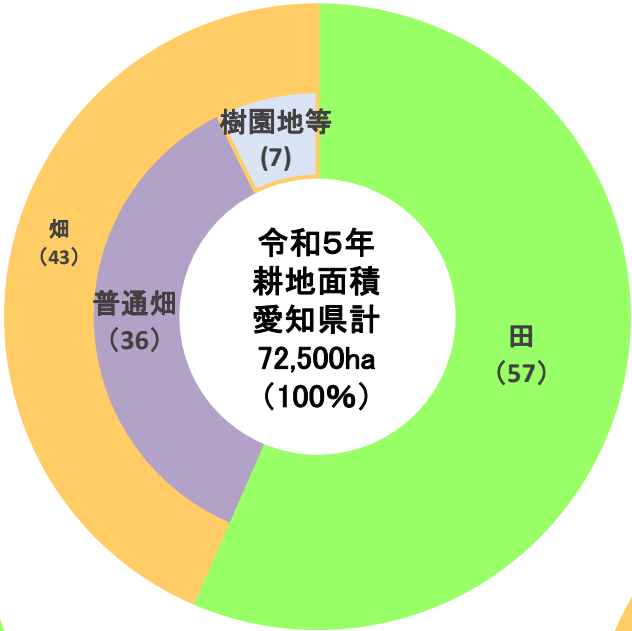
資料:農林水産省「野菜生産出荷統計」

資料:農林水産省「野菜生産出荷統計」

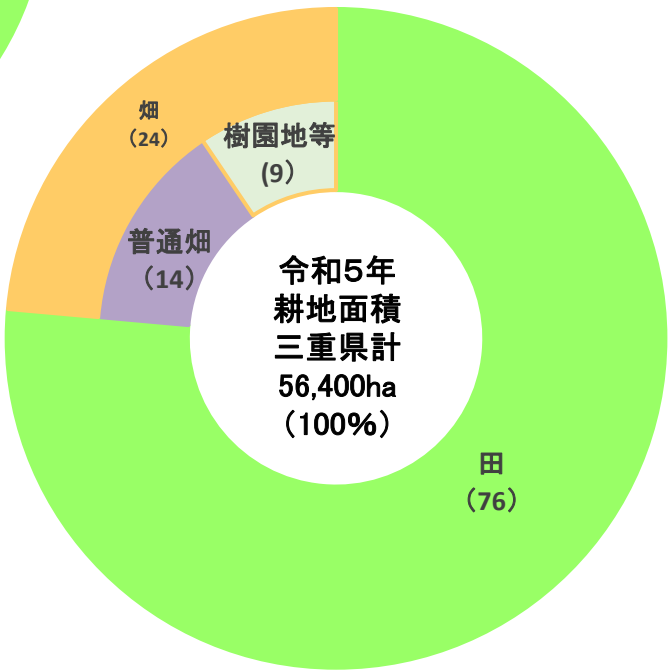
(参考)東海3県の耕地の田畑別割合(令和5年)

※ 野菜や花きの栽培が盛んな愛知県は、普通畑の割合が高い。

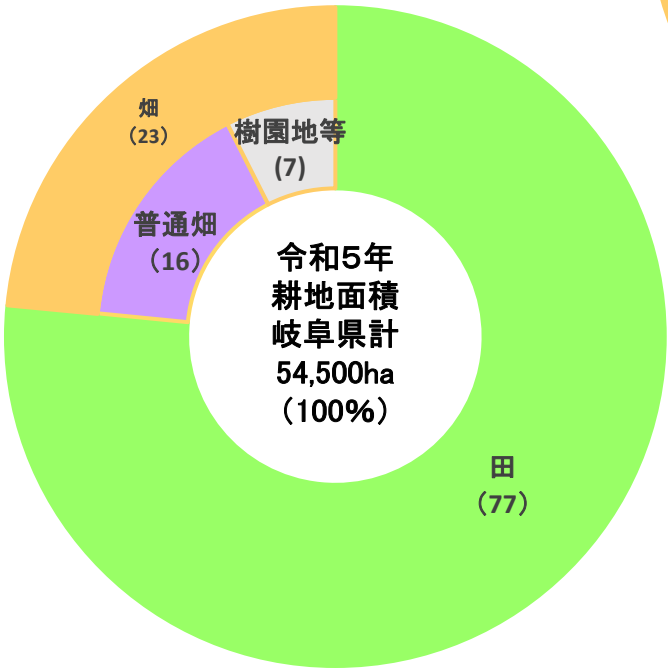
愛知県



三重県



岐阜県

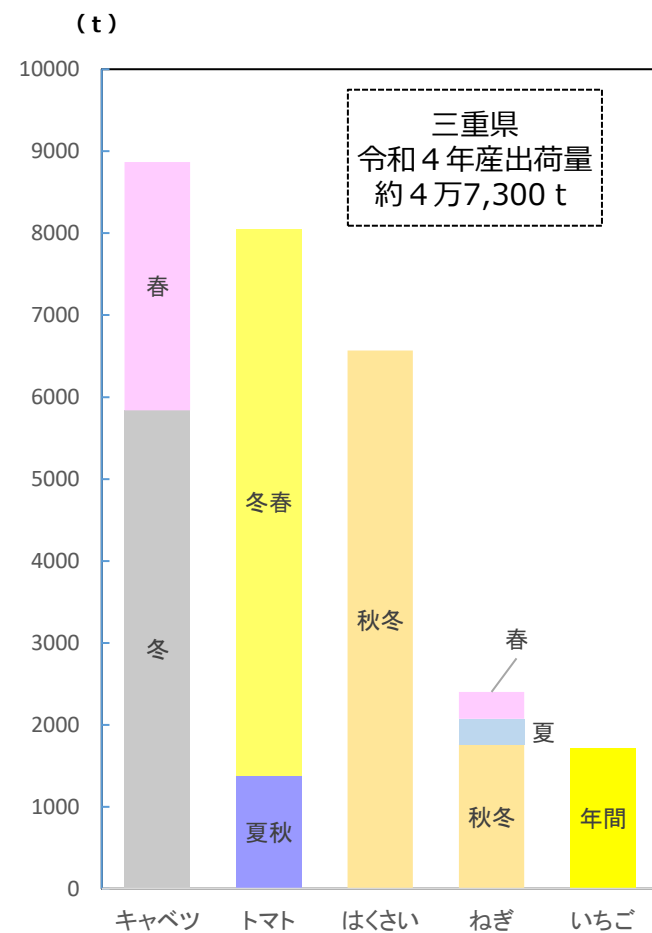
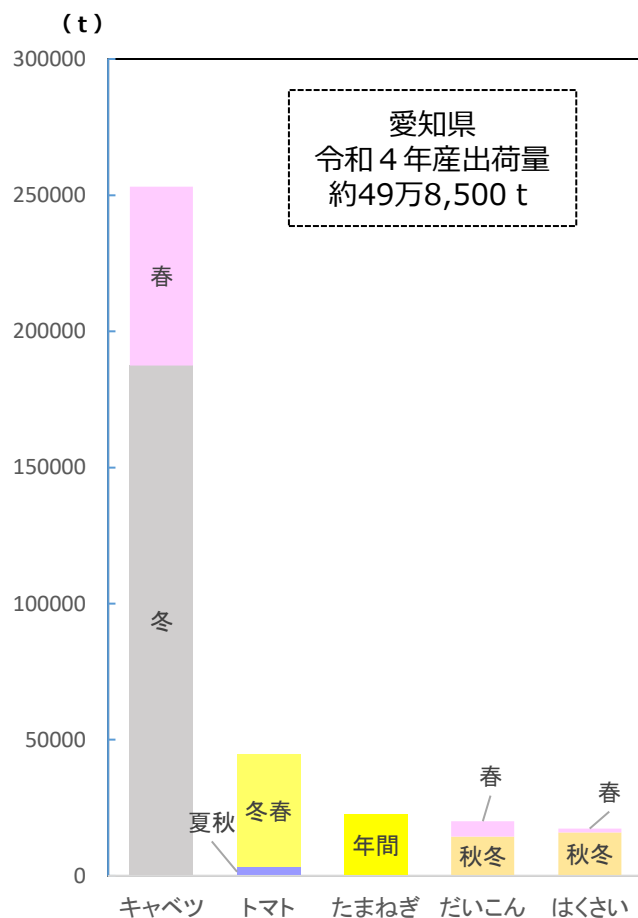
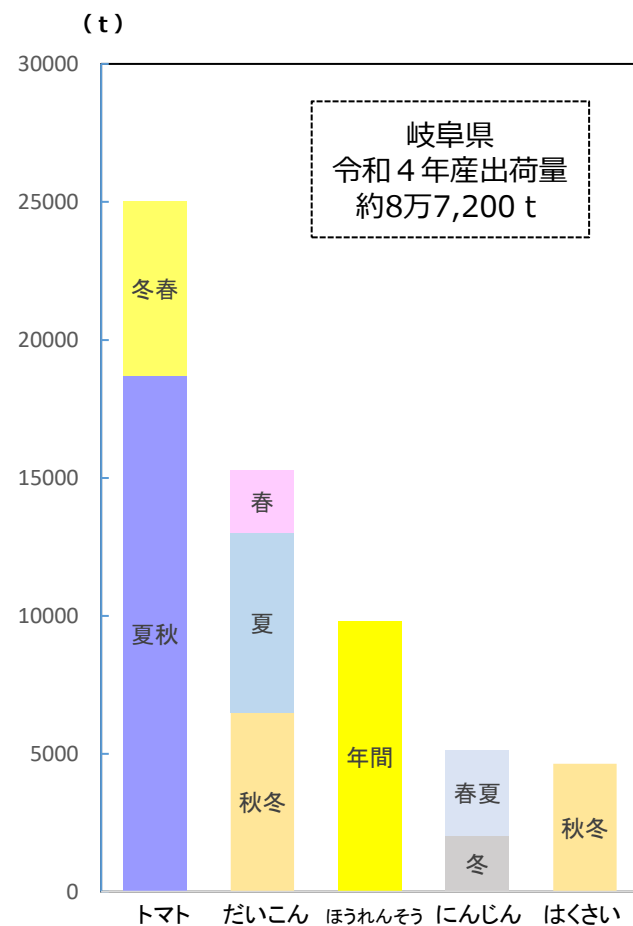


資料：農林水産省統計部「耕地及び作付面積統計」

4-1 県別・品目別(上位5品目)の出荷量の状況

- 東海3県で出荷量が最も多い野菜はキャベツで、愛知県では温暖な気候や用水が整備された立地条件を活用し、全国第1位の約25.4万トンを出荷。
- 出荷量が2番目に多いトマトは、愛知県、三重県では加温栽培による冬春トマト、岐阜県は夏の涼しい気候を活かした夏秋トマトを出荷。

<県別の出荷量の上位5品目の状況(令和4年産)>



資料:農林水産省「野菜生産出荷統計」

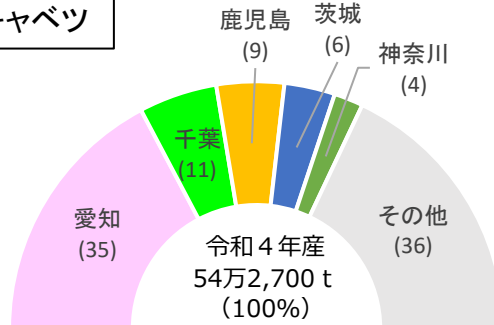
(参考) 東海地域の主な品目の出荷量の全国順位(令和4年産)

キャベツ 単位:t			トマト 単位:t			たまねぎ 単位:t			ほうれんそう 単位:t		
順位	都道府県名	出荷量	順位	都道府県名	出荷量	順位	都道府県名	出荷量	順位	都道府県名	出荷量
	全 国	1,310,000		全 国	645,300		全 国	1,105,000		全 国	179,000
1	愛知	253,800	1	熊本	125,800	1	北海道	772,900	1	群馬	20,200
2	群馬	243,200	2	北海道	58,700	2	兵庫	78,700	2	千葉	19,000
3	千葉	102,700	3	愛知	44,600	3	佐賀	78,100	3	埼玉	18,100
4	茨城	101,000	4	茨城	43,900	4	長崎	26,400	4	茨城	16,300
5	鹿児島	68,200	5	栃木	30,400	5	愛知	22,400	5	宮崎	11,000
6	神奈川	63,800	6	千葉	28,500	6	静岡	11,200	6	岐阜	9,790
7	長野	63,500	7	岐阜	25,000	7	熊本	10,600	7	福岡	8,530
8	北海道	58,300	8	群馬	20,000	8	栃木	8,460	8	神奈川	7,020
9	熊本	41,200	9	福島	19,500	9	群馬	8,130	9	栃木	5,040
10	福岡	22,000	10	福岡	17,300	10	香川	7,620	10	京都	4,620

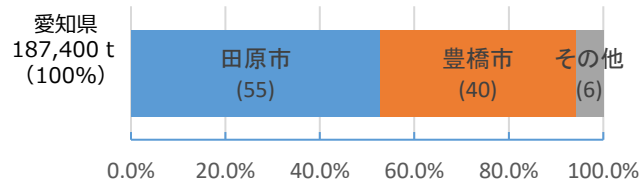
資料:農林水産省「野菜生産出荷統計」

(参考) 東海地域の主な品目の全国シェア(令和4年産)

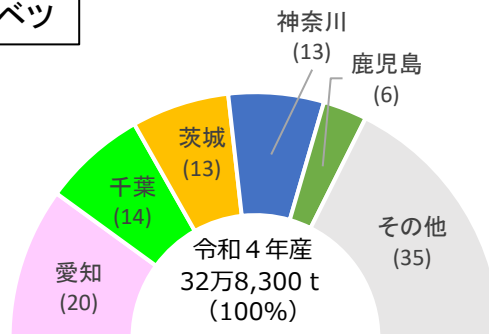
冬キャベツ



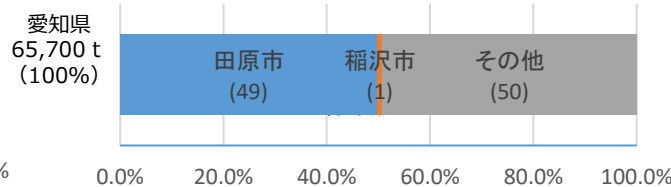
(参考) 愛知県・市町村別出荷量割合(令和4年)



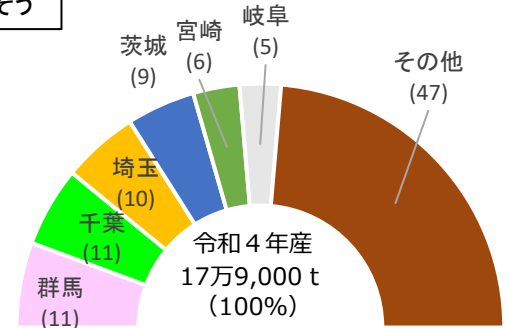
春キャベツ



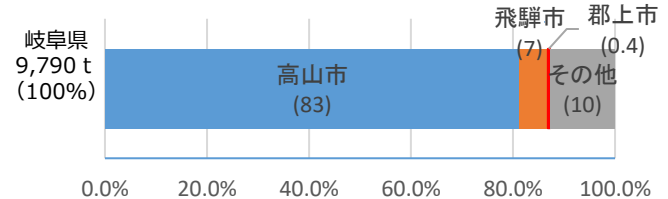
(参考) 愛知県・市町村別出荷量割合(令和4年)



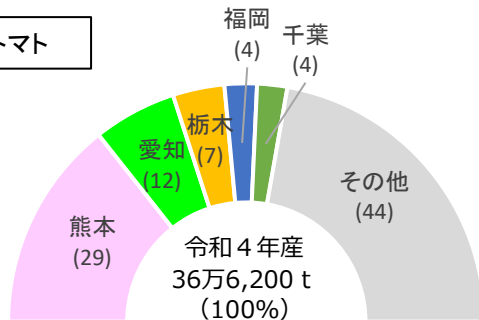
ほうれんそう



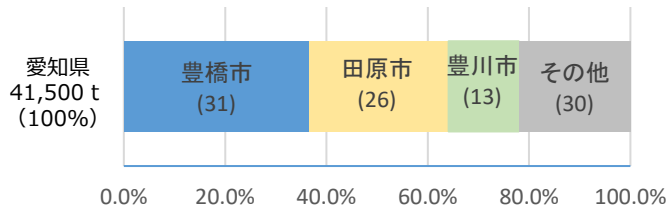
(参考) 岐阜県・市町村別出荷量割合(令和4年)



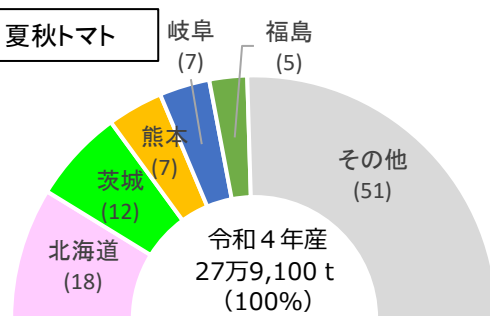
冬春トマト



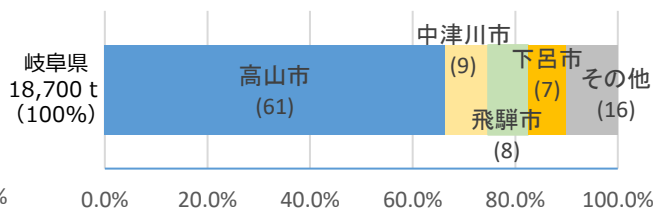
(参考) 愛知県・市町村別出荷量割合(令和4年)



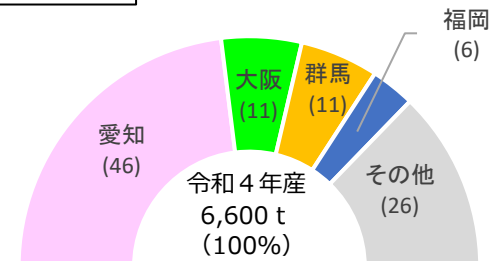
夏秋トマト



(参考) 岐阜県・市町村別出荷量割合(令和4年)



ふき

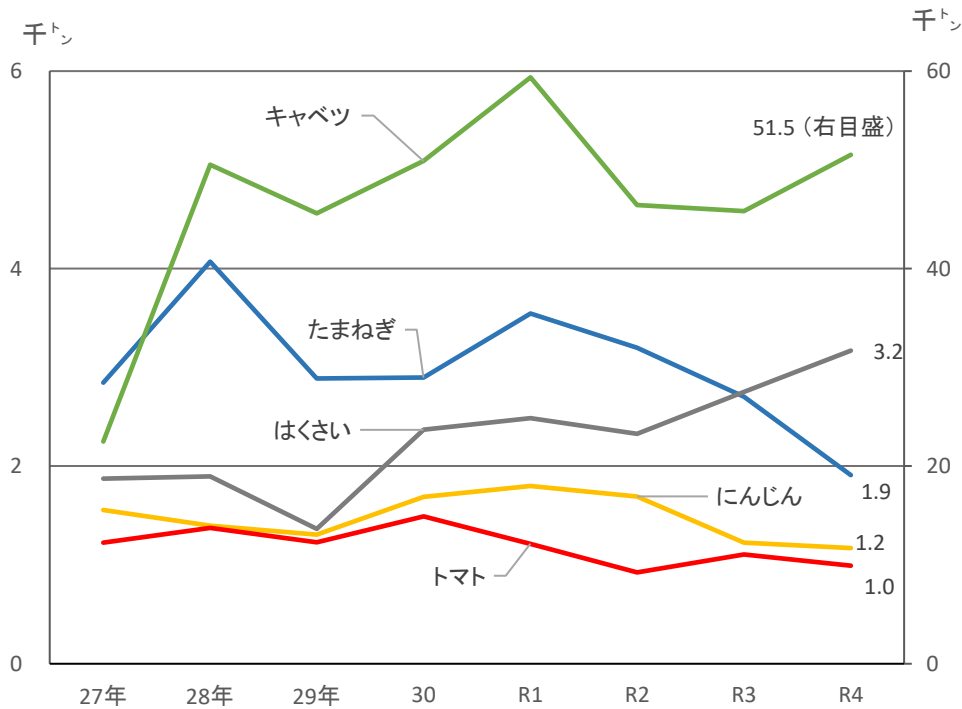


注: ふきの市町村別産出額のデータについては把握されていないため、記載なし

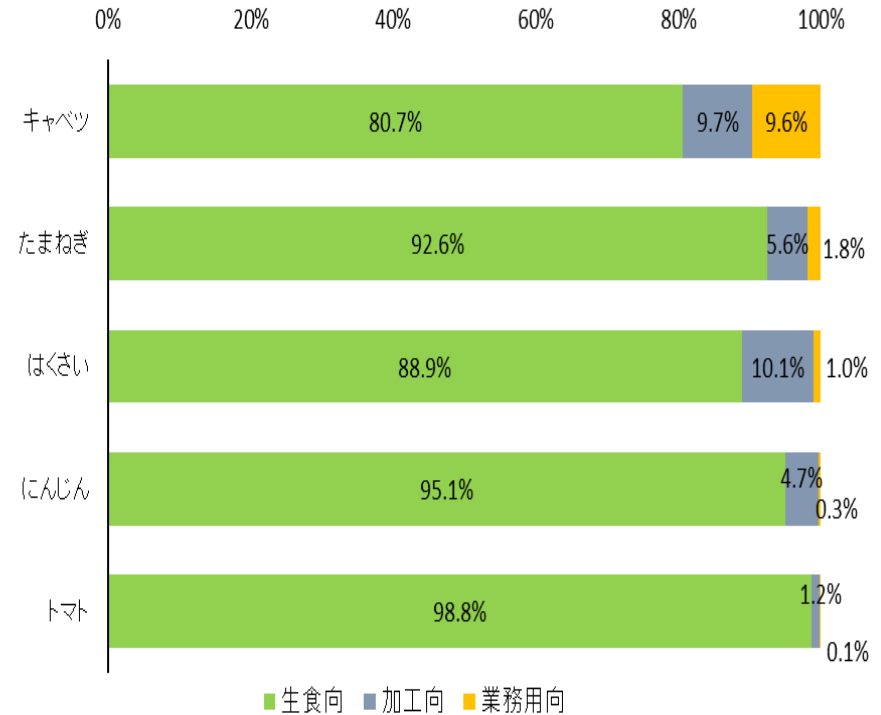
4-2 東海地域の加工・業務用野菜の出荷状況

- 加工・業務用の出荷量の多い上位5品目では、近年キャベツ、はくさいが増加傾向にあり、トマト、にんじんは横ばい傾向、タマネギは減少傾向で推移している。
- 用途別割合は、キャベツの加工・業務用は2割程度。たまねぎ、はくさい、にんじんの1割程度。また、キャベツ以外はほとんどが加工用、キャベツは加工用と業務用が半々程度の割合で出荷。

＜指定野菜のうち加工・業務用の出荷量の推移(上位5品目)＞



＜加工・業務用の出荷の多い上位5品目の用途別割合(令和4年産)＞



資料: 農林水産省「野菜生産出荷統計」

注: だいこん、ばれいしょ、ほうれんそう、レタスについては、データがない年があるため除いている。

資料: 農林水産省「野菜生産出荷統計」

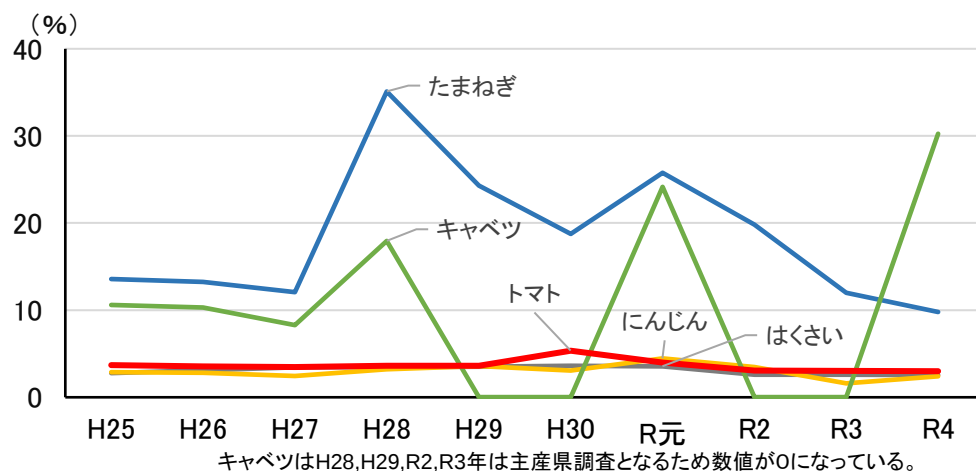
注: 加工向は、加工場又は加工する目的の業者に出荷したものと加工されることが明らかのものである(長期保存に供する冷凍用を含む。)。業務用向は、学校給食、レストラン等の外食・中食事業者へ出荷したものである。

4-3 県別の加工・業務用野菜の出荷状況

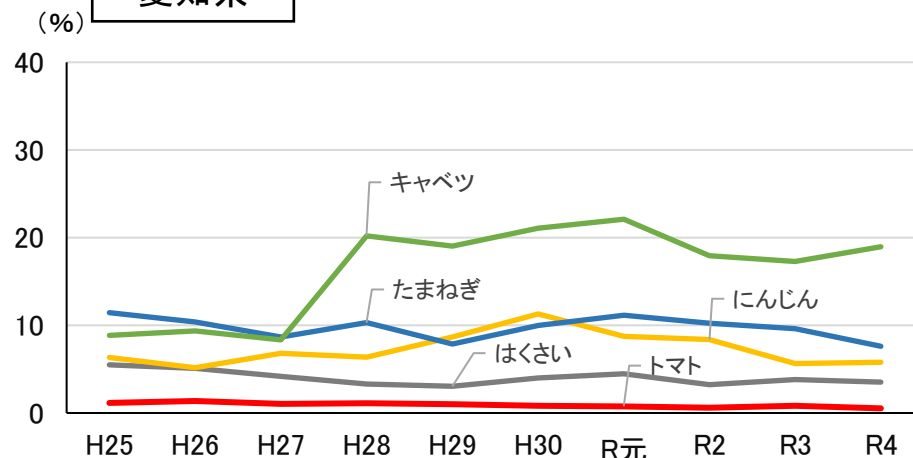
- 加工・業務用の出荷は、岐阜県では、キャベツの出荷割合が高く、三重県でははくさい、キャベツの出荷割合が高い。全国有数の生食用野菜産地である愛知県は、総じて加工・業務用の割合は低いが、近年、農家収入の安定化等の観点からキャベツの割合が上昇。

＜東海3県の主要品目の加工・業務用向け出荷量の割合の推移＞

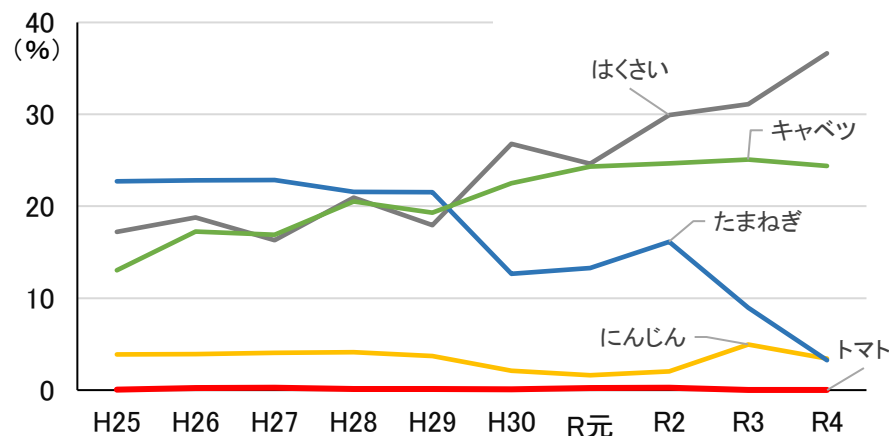
岐阜県



愛知県



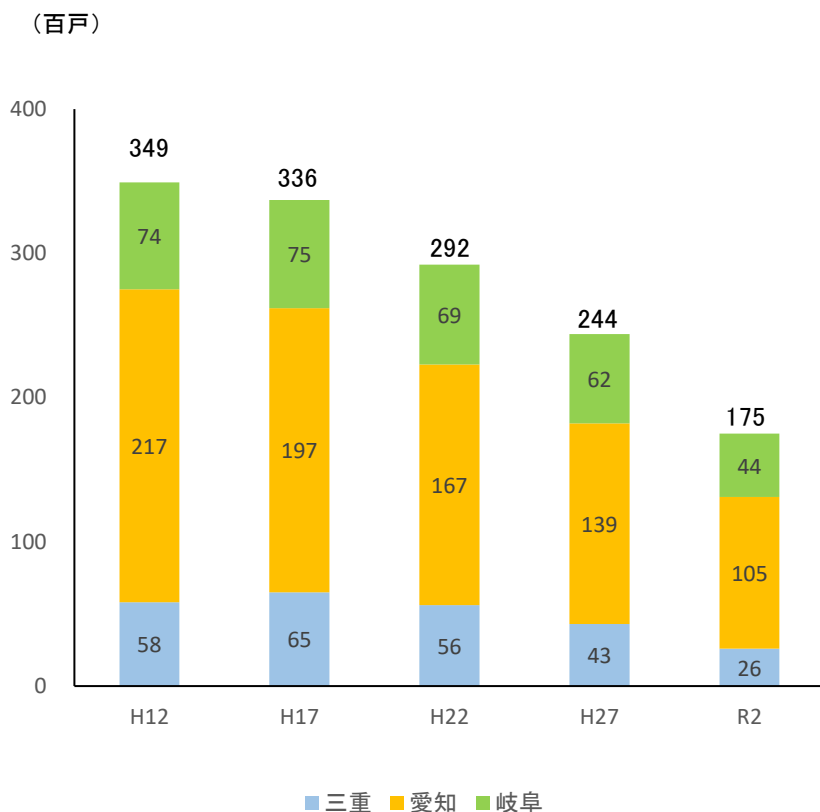
三重県



5 担手の状況

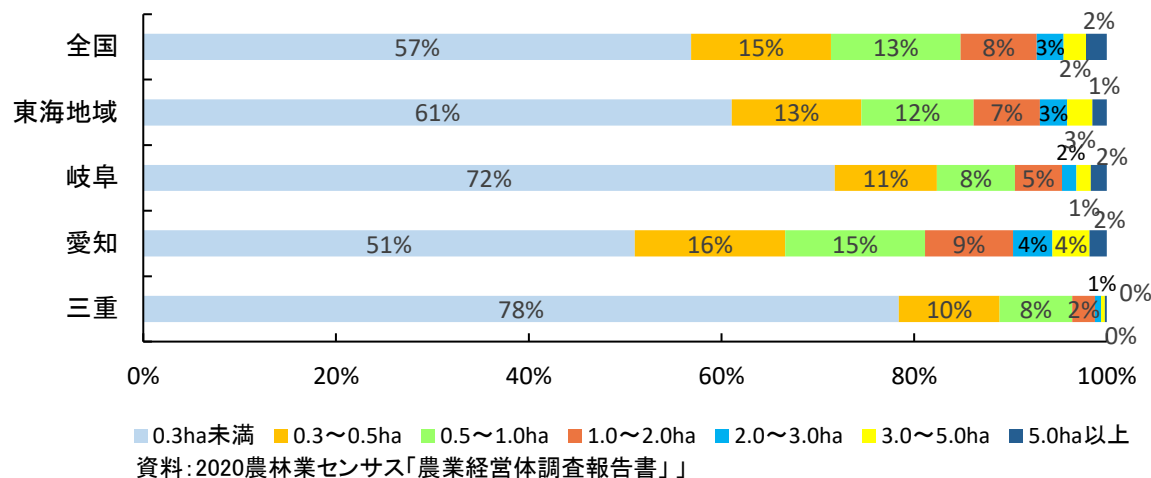
- 野菜の販売農家数は減少傾向が続いている。作付面積規模別には、全国と同様に0.5ha未満の農家が7割程度を占めているが、主産県の愛知県は他県に比べ規模の大きな農家が多く、1ha以上が約2割を占めている。
- また、愛知県は全国に比べ、都市的地域及び平地農業地域における農家の割合が高い。

＜野菜の販売農家数の推移(R2年)＞

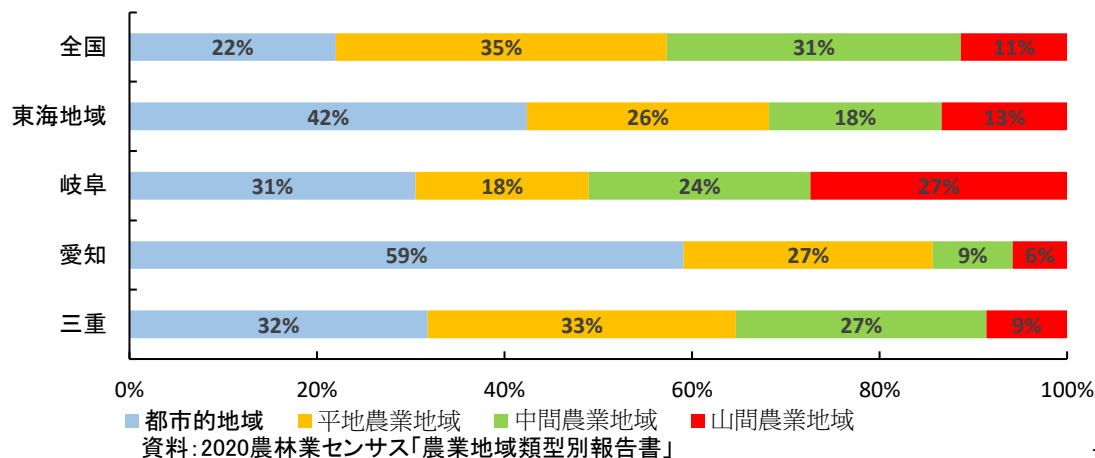


資料：2020農林業センサス「農業経営体調査報告書」

＜野菜作付面積規模別農家数割合(R2年)＞



＜農業地域類型区別作付経営体割合(R2年)＞



6 野菜のガラス室・ハウスの設置状況

- 東海地域の野菜のガラス室及びハウスの設置面積は、施設園芸の盛んな愛知県が東海地域全体の約7割を占め、東海地域全体で、ガラス室は全国の約3割を占めている。
- 園芸用施設全体面積（4,259ha）の6割は、施設野菜の栽培延面積（2,559ha）。品目別には、トマト（約3割）といちご（1割）で約4割を占める。

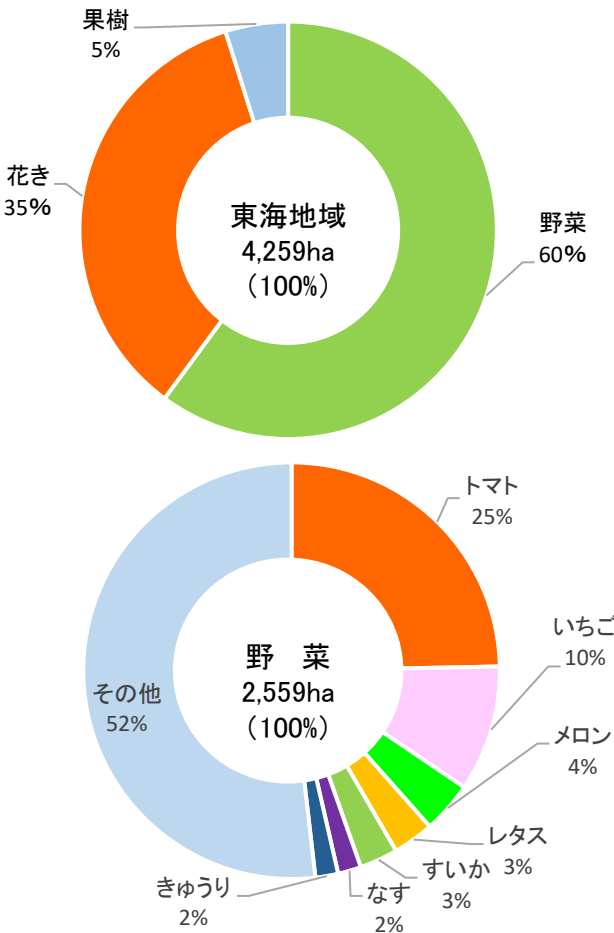
＜野菜用ガラス室・ハウスの設置実面積(令和4年)＞

(単位:ha)

		合計		
			ガラス室	ハウス
東海地域		2,008	221	1,787
	岐阜県	503	4	498
	愛知県	1,370	212	1,158
	三重県	135	4	131
全 国		27,812	721	27,091
東海のシェア(%)		7	31	7

資料:農林水産省「園芸用施設の設置等の状況」 ※ガラス室:ガラスで被覆された施設
ハウス:ガラス以外のもので被覆された施設

＜園芸用施設の栽培延面積構成(令和4年)＞



資料:農林水産省「園芸用施設の設置等の状況」



ハウス

ガラス室

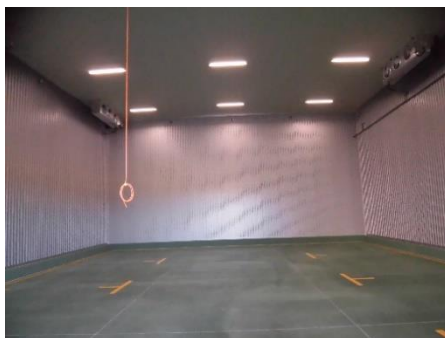
(参考)供給調整能力向上の取組事例

強い農業・担い手づくり総合支援交付金の活用(岐阜県海津市)

～全農岐阜県本部の取組～



青果物流通センター(外観)



青果物流通センター(内部)



制御盤

1 取組の背景

食の外部化の進展を背景に、国内の野菜需要は家計消費から加工・業務用にシフトし、加工・業務用野菜の割合は約6割を占めており、実需者の取扱高は近年急速に拡大している。しかしながら、国産野菜については、実需者の求める「定時」、「定量」、「定質」、「定価格」のニーズに対して、

- ・産地が小規模で安定した供給ができない
- ・複数産地・県が連携したリレー出荷が確立できていない
- ・気象変動による豊作・不作や出荷時期の前進・遅延に対応した供給量を調整するシステムが構築できていない

という理由から、充分に対応できていない。そこで、全農岐阜・三重・滋賀各県本部とJA全農青果センター(株)が連携して実需者への周年安定供給のできるシステムを構築し、加工・業務用野菜産地の振興を図る。

2 取組概要

① 生産安定・効率化の取組

関係機関と連携した栽培指導の実施、品種や栽培技術の検討及び鉄コンテナレンタル事業の推進。

② 供給調整機能向上の取組

全農岐阜県本部が拠点事業者となり、三重・滋賀各県本部等と連携して県域を越えた体制を構築し、令和2年度強い農業・担い手づくり総合支援交付金(新たな生産事業モデル支援タイプ)を利用して、冷蔵貯蔵施設(海津市)を整備・運用。

③ 実需者ニーズへの対応

生産者とJAとの出荷契約締結及び出荷計画策定期間を中心に情報交換会等を行って課題の確認・対応等について協議を行うとともに、青果物貯蔵庫を有効活用した安定した品質の生産物の安定供給。

(参考) 次世代施設園芸 愛知県拠点

- 空調及び根域の複合環境制御技術によりミニトマトの収量21t/10aの高単収（全国平均は5.8t/10a）で安定生産の実現。
- 下水処理場の放流水等の熱エネルギーの活用により化石燃料使用量を3割以上削減。



コンソーシアム構成員

民間企業	イノチオアグリ(株)、(株)サイエンスクリエイト
生産者	イノチオみらい(株)
地方自治体	愛知県(行政、試験研究、普及) 豊橋市
販売先	イノチオつなぐ(株)
農業団体	豊橋農協
研究機関	豊橋技術科学大学
オブザーバー	(株)イデアル・アトレ、(株)アスペン フードプランニング、川村商事(株)、 愛知県経済農業協同組合連合会

施設整備主体

園芸施設 エネルギー供給施設 種苗生産施設 集出荷施設	イノチオみらい(株)
--------------------------------------	------------

栽培品目・面積(ha)・栽培方法

ミニトマト 3.6ha（長期多段栽培）

収量(t)・販売金額(千円)

【計画】

- ミニトマト
 - ・収量 726t/年 (21t/10a)
 - ・単価 537円/kg
 - ・販売額 389,733千円

住所: 愛知県豊橋市新西浜町【愛知県豊川流域下水道: 豊川浄化センター】(敷地面積415,604㎡)

事業実施概要	拠点整備	●温室(高軒高多連棟ハウス2棟: 2.9ha、0.7ha) ●下水処理場放流水の熱エネルギー供給設備 ●種苗生産施設 ●集出荷施設
	技術実証	●複合環境制御(ミストによる飽差管理、炭酸ガス供給及び根域環境制御等)による周年高品質・高収量栽培の実証 ●放流水の熱エネルギーを利用した加温技術の実証
	環境整備	●民間企業、生産者、県、市、農協及び契約販売先などで構成するコンソーシアムの設置 ●消費者の嗜好や需要に関する市場調査、それに合わせた新品種・品目の先行栽培での地域展開 ●他産地との差別化によるブランド構築、スーパーや販社への販促活動による新規販路の開拓